



# 龍谷大学校友会 兵庫県・丹篠支部会報 第4号

2021年12月 発行

黒井地区でのフィールドワークに参加した学生や校友・地域の人たち

連絡先／龍谷大学校友会 兵庫県・丹篠支部 事務局 芦田淳一 〒669-3634 兵庫県丹波市氷上町沼12-2 TEL0795-82-7588 mail jandm@nike.eonet.ne.jp

## 学生の活動で地域を変える



2021年はコロナ禍で丹篠支部の対面総会などの活動が出来ませんでしたが、他の支部も同じ状況との報告がありました。しかしながら丹篠支部は、まさに激動の一年でした。

母校政策学部と黒井地区との地域活動の橋渡しが出来ました。去る8月6日緊急事態宣言が解除後、政策学部の只友教授を始め教員2人と学生11人による丹波市黒井地区でのフィールドワークが実施されました。今回、来訪者は事前にPCR検査を受け、受け入れ側も少ない人数に限り、日帰りでの活動になりました。活動内容は、滞在時間も限られる中、初めて訪れた黒井地区の印象をSNSで発信することでした。

活動に先立ち、リモートでの協議を重ね、まさにデジタル社会の到来を実感しました。フィールドワーク終了後は、リモートでの活動報告会があり、学生が事前に調べた黒井地区と実際訪れた黒井地区の感想や今後に生かす思いなど、前向きな意見が報告されました。また、地元と大学を結ぶコーディネーターの役目をしていただいだ、一般社団法人Beの中川ミミさんや、地元黒井地区自治協議会の関係していただいた皆さんに感謝申し上げます。只友教授が言われた「地域を変えるには、住民の意識が変わらないと、変えることはできない」は、非常に的を得ていると思います。

龍谷大学政策学部のホームページ「政策学部10周年記念サイト」をご覧ください。政策学部の目指すところが分かり、この様な学生たちの活動で必ず丹波市と丹波篠山市は、変わっていくような気がします。

次回からは宿泊を伴う活動になりそうですが、会員と学生の懇談や丹波篠山市への訪問も出来ればと思っております。

## 黒井地区でのアクティブ・ラーニング研修と大学教育の未来



平素より校友会の皆様にはひとかたならぬ心遣いとご支援を賜り、感謝申し上げます。とりわけ、政策学部の「地域公共人材特別講義(新PBL入門)」のアクティブ・ラーニング研修(以下、AL研修)を丹波市黒井地区で受け入れて頂き、受講学生は大変充実した学びを得ることができました。改めて御礼申し上げます。

丹波市黒井地区での研修受け入れは、校友会丹篠支部のご尽力と黒井地区自治協議会のご理解とご協力を頂き実現できました。コロナ禍でフィールドワークに制限があり、この科目的研修は、例年の宿泊研修から日帰り研修に制限されました。しかし、この日帰りの制約から研修先とのオンラインで綿密な打ち合わせを重なるなど準備も今風で進めることになりました。そして、現地コーディネーターの中川ミミさんの抜かりない事前の調整のお陰で、日帰りでも大きな成果を得ることができました。

フィールドワークの中で、ある若い自営業者は「田舎にはチャンスがある」と学生達に話してくれました。学生達が抱く「大都会にチャンスあり」との考えとは、真逆の話を聞いて地域を見る目が変わったようにみえました。このAL研修の意義は、学生に気づきを与えるところにあるのです。

8月17日から兵庫県と京都府にも緊急事態宣言が発出、9月からの新学期はオンライン授業を基本でスタート、緊急事態宣言が解除されて、11月15日から対面授業を基本とする体制に切り替わりました。コロナ禍への対応に龍谷大学も苦闘しているのです。しかし、こうしたコロナ禍の危機対応の中にも、新たな教授法や学びのスタイルも開発されてきています。そして、アクティブ・ラーニングもオンライン教育も普及し、新たな大学の学びが創出されると思われます。そうした新しい潮流は、これからの大大学教育を変えます。

龍谷大学は時代の潮流を捉え、新たな大学教育の創造を進めていますので、校友会の皆様にもお力を貸していただきたいと思います。これからも変わらぬご支援をお願い申し上げて、私からのご挨拶とさせて頂きます。

支  
部  
長  
浅  
田  
芳  
生

龍  
谷  
大  
学  
政  
策  
学  
部  
教  
授

# 活躍する 校友

年を重ねるほどに懐かしくなる学生時代。そんな思い出を糧にして、仕事や地域活動に励む2人の校友に寄稿して頂きました。

## 丹波篠山市ボランティア連絡協議会 会長

### ●青春の思い出はボランティア

#### 向 井 祥 隆さん

むかい よしたか



「でいい・ふれあい・わかちあい」を経験し、その体験があつて今生かされていると思うのです。

京都学生ボランティア協会では「子羊友の会」に、母校龍大では「ボランティア同好会」の設立期から参加。卒業してからは故郷丹波篠山に帰り、青年団活動・多紀郡ボランティア連絡協議会の設立等々、多くの仲間に恵まれて地域活動に参加してきました。仕事も社会教育、社会福祉、文化事業、人権教育の現場を担当、そこでも多くのボランティアとの出会いがありました。

そんな経験もあってか退職後も様々な団体からお声掛けをいただき、ほぼ毎日イベントや会議、ボランティア活動の各種の実践現場に身を置いています。70歳を超えての参加は身体的には厳しいことも不安もありますが、活動する機会とご一緒する人たちとの長年のお付き合いが続けられることに日々感謝しているのも事実です。

5年ほど前に母校深草の学舎を校友会丹篠支部で訪問しました。昔の面影は無く新しく建て替えられた素晴らしい学舎に驚くばかり、ただ一つ4回生の時に新築された学生会館が残っていました。古びた建物になっていましたがそこにあったのが「ボランティア同好会」の看板、涙が出ました。半世紀近くを年齢が急速に逆回転していくのがわかりました。

古き良き時代の思い出とはいえ、宇治の児童施設での活動や京都市内をボランティア活動で駆け回っていた一コマ一コマが浮かんできたのです。師走の空っ風が吹きすさぶ京都四条河原町の交差点に立って、重度障がい者施設の建設募金や福祉制度改正への署名活動を続けた記憶。70年安保の激化する紛争もある中での活動でしたが、笑顔が交わせる仲間がいる喜びと時代が持つ福祉の現状に憤る自分自身の姿もそこにはありました。人権への視点もその時に学んだ経験が今に蓄積されています。大学生活は私のライフワークである「社会福祉運動」の原点なのです。

丹篠支部前支部長。ボランティア活動、音楽活動など様々な方面で活躍中。龍大時代の話は面白い。丹波篠山市宮ノ前在住

## 大塚病院 看護師

### ●龍大卒業生がもたらしてくれた幸運の繋がり

#### 山 内 佳 子さん

やまうち よしこ



私は龍谷大学を卒業して17年間、京都に住んでいました。長男が高校へ入学し、お昼は「京都銀行」でパート、そして夜は「レストランさと」でと2つの仕事を掛け持ちで働いていました。かなりの時間と体力を要する

割には、収入があまりなく、1つの仕事で収入が安定する仕事はないかなと思い悩んでいました。ちょうどそのころ、京銀の先輩が「私の妹が看護師だけど、夜勤をしたら結構収入もいけるみたいよ」とアドバイスをくれました。

その先輩のアドバイスがきっかけとなって私は、それから1年間、近くの病院で看護助手として働きながら勉強をし、翌年看護学校に合格し入学することができました。そして看護学生として働きながら学校に通いました。実は私のクラスには、もう一人龍谷大学の卒業生がいました。その人は社会学部卒の女子で、私より4歳若くて、いつも私よりもテストの点数が上でした。それで私も負けるまいと努力しました。一生懸命に病院で看護学生として働いて、そのあと学校、帰ってきたら、家の用事、子どもの世話、あっという間に月日が流れ、そののちにはもう一度、正看護師の学校へ再入学。そして猛勉強し難関の国家試験に1回で合格し、どうにかこうにか看護師になることが出来ました。しかし、今になって考えてみると龍谷大学に行っていたからこうやってスムーズに看護師になり、人生の軌道修正がうまくいったように思うのです。

なぜならば、大学へ行くために勉強していく勉強の基礎が出来ていたこと。そして龍谷大学卒の友達が看護学校について心から励まし合えた事。そして何より大きかったのは、再入学した正看護学校の先生の中にもなんと龍谷大学卒の先生があられたことです。この先生は入学式の日に私を呼び出し「あなたた龍谷大学を卒業しているのですってね。私も龍谷大学です」とあっしゃいました。入学式でこんなラッキーな出来事があるとは…。またこの先生は私と同じ経営学部でしたので、余計に私のことを気にかけて、勉強がうまくいくようにアドバイスをくださいました。本当にありがたいことです。

この恵まれた幸運をこれからも繋げていけたらと思います。これからは25年間続けてきたこの仕事をもう少し頑張って、そうして10数年前から住む丹波市と、丹波篠山市の校友会『丹篠支部』の発展のために努力をしていきたいです。



校友会阪神支部総会にて

丹篠支部副支部長。周囲をなごませる明るいキャラクター。京都弁を聞くと学生時代を思い出す。丹波市春日町柏野在住

# 自慢の観光スポット

丹波地域の話題の物や場所やなどを紹介するコーナーでは、丹波篠山市の日本遺産に認定された丹波黒大豆、丹波市立氷上回廊水分れフィールドミュージアムを取り上げました。



丹 波 市

## 氷上回廊水分れフィールドミュージアム



今春リニューアルオープンした水分れフィールドミュージアム

### —本州一低い中央分水界をPR—

ミュージアムは、丹波市氷上町石生(いそう)にあり、地域の特色である本州一低い中央分水界「水分れ」を解説する全国でもユニークな博物館です。開館30数年を経過した丹波市立水分れ資料館を衣替えし、3月20日にリニューアルオープン。11月末で約25,000人の入館者があり、好調です。

氷上回廊は、水分れを中心に瀬戸内海から日本海への一本の道のように続く標高100㍍に満たない低地帯で、多様な動植物が混在し、人や物の往来、文化の交流が活発に行われるなどの歴史の足跡を刻んできました。一般的に分水界は、山の稜線を通るため、分水嶺と呼ばれますが、日本列島を貫く中央分水界のうち、水分れでは約1,250㍍の区間が平たんな谷で分かれています。谷中(こくちゅう)中央分水界とよばれます。一番低い所で標高95.45㍍。地球温暖化で海面水位が100㍍上昇すれば、氷上回廊は海峡のようになります。本州が分断されるのです。

ミュージアムでは由良川水系と加古川水系の分歧点にあるという地域性を生かした展示が豊富。「丹波市の自然や文化を身近に感じ、学び、体験してほしい」と館長補佐の菊川裕幸学芸員は話す。1階展示室には、氷上回廊の地形の秘密、南北の動植物が混在する不思議な生態、人、モノの交流の歴史などを紹介。哺乳類、鳥類、昆虫、植物などのはく製、標本も展示。かつて加古川水運に利用されていた高瀬舟の実物もあります。(白井学記)



氷上回廊を紹介するミュージアムの展示

【メモ】▽住所:兵庫県丹波市氷上町石生1155▽開館時間:10時~17時(入館は16時半まで)▽休館日:月曜日(祝日の場合はその翌日)▽入場料:大人210円、小・中学生100円▽電話:0795-82-5912

校  
友  
信  
息

◆篠倉庸良(ささくら・のぶよし) 丹波篠山市副支部長が黄綬褒章受章 地域や社会の発展に尽くされた功績により、今秋に褒章を受けられました。篠倉さんは、釣り具メーカーのささめ針代表取締役で、丹波市商工会長としても活躍されており、釣り具業界をは



じめ、地域の商工業者のリーダー的存在。龍谷大学時代は釣り研究会に所属。支部の懇親会では、趣味のギターでフォークソングを演奏するなどムードメーカーでもある。今後、さらなる活躍を期待したいと思います。



丹 波 篠 山 市

## 丹波篠山の黒大豆栽培



日本農業遺産に認定された黒大豆栽培

### —日本農業遺産のまちに認定—

令和3年2月、丹波篠山の黒大豆栽培が「300年も前から何世代にもわたり独自の伝統技術の中で培われ、将来に向けて受け継がるべき農業システム」として、日本農業遺産に認定されました。

日本農業遺産とは、重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域(農林水産業システム)を農林水産大臣が認定する制度で、現在、全国で22地域が認定されており、兵庫県下では南あわじ地域のたまねぎや美方地域の但馬牛を含めて3地区が認定されています。

「丹波篠山の黒大豆栽培」が評価された要因として、①昔から水不足のために稻作をしない「犠牲田」を集落で協力し合いながら設け、そこで黒大豆栽培が始まった。②当時、丹波篠山の多くの水田が過湿・重粘土な湿田でしたが、溝を掘り、畝を高くすることで黒大豆栽培を可能にした。③豪農大庄屋 波部本次郎らによって在来種の中から優良な種子を選抜育種し大粒化をすすめ、採種ほ場を設置するなど持続的に優良な種子を生産してきた。④水の少ない丹波篠山では、多くのため池が築造されたことで希少な両生類などが生息している。⑤灰小屋で粗糞や落ち葉を焼いて作る灰肥料が用いられるなど、農の営みの中で自然環境が守られていることなどです。

先人の努力と技術と知恵によって連綿と作り続けてきた丹波篠山の黒大豆。そして、良質な黒大豆を生み出す丹波篠山の独特的な風土と自然環境。これからも、丹波篠山市では、関係機関が協力して、歴史ある黒大豆栽培を守り魅力を高めていくことになります。(細見英志記)



丹波篠山の黒大豆

# 政策学部生が 黒井で フィールド ワーク

龍谷大学の政策学部の学生が8月6日に初めて丹波市春日町黒井地区を訪問し、フィールドワークを行い、1年生を中心には11人の学生が活動しました。

校友会(同窓会)兵庫県・丹篠

支部(浅田芳生支部長)が大学と受け入れ先の黒井地区自治協議会(藤本修作会長)との橋渡しをしました。京阪神や滋賀、広島などの出身地の学生たちは、初めて訪れた丹波の地。見る物すべてが新鮮で、地域の人たちや地元校友会のメンバーの案内で田んぼや里山に入ったり、まち歩きを楽しみ、動画に収めました。

行き先は、徳川三代将軍家光の乳母「春日局」出生地の黒井城下館(現・興禅寺)、「フルーツファーム春日」、「まきんこの森」、「なかで農場」、「喫茶・食事 みんなのいえ」、「エステ&コスメCOCO」、「駄菓子のまえだ」、「道の駅丹波おばあちゃんの里」など。学生が事前に調べて興味を持った場所をピックアップし、3班に分かれて歩いたり、自転車で見て回りました。

学生の声を拾ってみると、▽実際に見てみると駄菓子屋さんやカフェなど良い所がたくさんあった。地域の雰囲気などが明確に感じられた▽自分で考えて行動することが大切であると気づいた▽私たちのやりたいことに対し、地域の方々がとても積極的に後押していただいている。地域への愛を感じた▽太陽の光、風、セミの鳴き声、見える景色全てが身にしみた▽地域の人たちが母校(龍大)のことにも興味をもっていただき、温かみをひしひしと感じた▽理屈抜きでもう一度訪れたいと無意識に思ったなどと好評でした。

学生の訪問は、校友会丹篠支部が校友会本部を通じて、大学に働きかけをしていたもので、コロナ禍のなかで、延び延びになり2年越しに実現しました。引率した只友景士教授は「校友会が橋渡しをした活動はおそらく初めてで、心強い。学生は地域デビューという形になった。地域での学びを発展させてほしい」と期待を込めていました。藤本会長も学生に黒井地区の特色を伝え、「校友会や大学、学生との交流が定着す

## 校友会丹篠支部役員会

(卒業年次・学部・住所)

- ▽支 部 長=浅田芳生 (1974・経営・丹波市)
- ▽副支部長=篠倉庸良 (1976・経営・丹波市)  
新才博章 (1976・法学・丹波篠山市)
- 山内佳子 (1978・経営・丹波市)
- ▽事務局長=芦田淳一 (1974・経営・丹波市)
- ▽会 計=村上佳邦 (1982・経営・丹波市)
- ▽理 事=向井祥隆 (1971・経済・丹波篠山市)  
前川悦子 (1971・文学・丹波市)  
大地常夫 (1973・経営・丹波市)  
齋藤純一 (1974・経営・丹波市)  
臼井 学 (1977・法学・丹波市)  
細見英志 (1998・法学・丹波篠山市)
- ▽監 事=藤本雅浩 (1987・法学・丹波篠山市)  
塩見眞吾 (1988・経営・丹波市)

## 地域の温かみひしひし／もう一度訪れたい

るよう」と話していました。

丹篠支部では藤本会長とともに、地元の氷上高校を訪問し、来年度からの連携について意見交換。林時彦市長にも活動を報告しました。コロナがおさまれば、大学としては、来年度は2泊3日で訪れる意向。なお、活動の一部が龍谷大学校友会ホームページの支部紹介のなかで、フィールドワークの様子が動画でアップされています。



地域をサイクリング



フルーツファーム春日で研修



まきんこの森を体験



当日、フィールドワークの成果を発表

## 編集後記

2021年もコロナ禍で過ぎ、支部事業も思うにまかせないなかで、ようやく会報紙を発行することができました。

世の中は大きな変革期を迎えました。まさに、ITの時代で、初めて経験したリモート会議では右往左往する始末。大学も対面授業が出来ずリモート授業に替わり、新しい時代に入った感があります。

この様な状況下でも、母校の政策学部の学生が黒井地区を訪問し、フィールドワークが出来ました。ネットで事前に調べた黒

井地区と実際訪問し、街中散策や住民との会話でその落差を実感し、あらためて現場を訪れるの大切さに気付いたと思います。

会員の皆様はじめ母校、校友会本部、フィールドワークに携わって頂いた皆様のおかげであり、お礼申し上げます。卒業生の本会未加入の皆様には、母校や地域の為に活動してみませんか、是非入会していただきますようお願いします。

(編集委員 浅田、芦田、臼井)